

## 富山県魚津市地先における海草ウミヒルモとコアマモの生育記録 (短報)

藤田 大介・高山 茂樹  
(1999年3月25日受理)

Records of sea grasses *Halophila ovalis* and *Zostera japonica* off Uozu City,  
Toyama Prefecture (Short Paper)

Daisuke FUJITA\*<sup>1)</sup> and Shigeki TAKAYAMA\*<sup>2)</sup>

### Abstract

In Toyama Bay, sea grass beds are common in the sandy or muddy shallow bottoms of the west side, namely along the coast of Noto Peninsula from Himi to Suzu. On the east side of the bay, although not publicized in any report, two species of sea grasses, *Halophila ovalis* and *Zostera japonica* have been known. They had been sampled from middle coast of Uozu City in the late 1980's and *Z. japonica* had been exhibited with its epiphytic aplysiacean sea slug in Uozu Aquarium. The *Z. japonica* bed that had established itself around 1985 on shallowed bottoms inshore of the concrete-block waterbreaker seemed extinct as a result of the following shore-protecting works and *Halophila* has not been recollected from the coast. In 1998, however, small colonies of *Halophila* were found on muddy bottoms at depths of around 10 m. The colony is likely to be the only satellite population of *Halophila* between the Noto Peninsula and Sawada (northern limit of the species) of Sado Island. The third species, *Z. marina* was found among entangled Sargassacean drifts on the middle coast of the city in 1999. The finding of drift plants and the existence of an anticlockwise bay stream suggest that these sea grasses were introduced from sea grass beds on the western side of Toyama Bay.

Key word: distribution, *Halophila ovalis*, sea grass, Sea of Japan, Toyama Bay, *Zostera japonica*, *Zostera marina*

海草、すなわち海産顕花植物は、浅海の砂泥域にアマモ場と呼ばれる群落を形成する。アマモ場で幼仔稚期を過ごす魚介類、固有の生物は多く、古くから水産上の重要性が指摘されてきたが、近年では、環境浄化、特に富栄養化防止への期待も高まっている(日本水産学会編 1981)。富山

\*<sup>1)</sup>富山県水産試験場 (Toyama Prefectural Fisheries Research Institute, Namerikawa, Toyama, 936-8536, Japan)

\*<sup>2)</sup>魚津水族館 (Uozu Aquarium, Sanga, Uozu, Toyama, 937-0857, Japan)

湾では、西側、すなわち、氷見市から能登半島先端の珠洲市にかけての能登半島内浦（佐野ら 1978, 佐野・藤田 1998, 藤田 1998）にはごく普通にアマモ場が分布しているが、湾の東側からは公表された記録がない。しかし、魚津市沿岸（Fig. 1）では、1980年代にウミヒルモ *Halophila ovalis* とコアマモ *Zostera japonica*, 1990年代にウミヒルモとアマモ *Zostera marina*（但し、後者は寄り藻として）を採集しているの、ここに情報を整理し、記録しておく。

**ウミヒルモ** 1989年頃、魚津新港の入口付近（Fig. 1）で潜水し、水深約 3 m の海底からウ

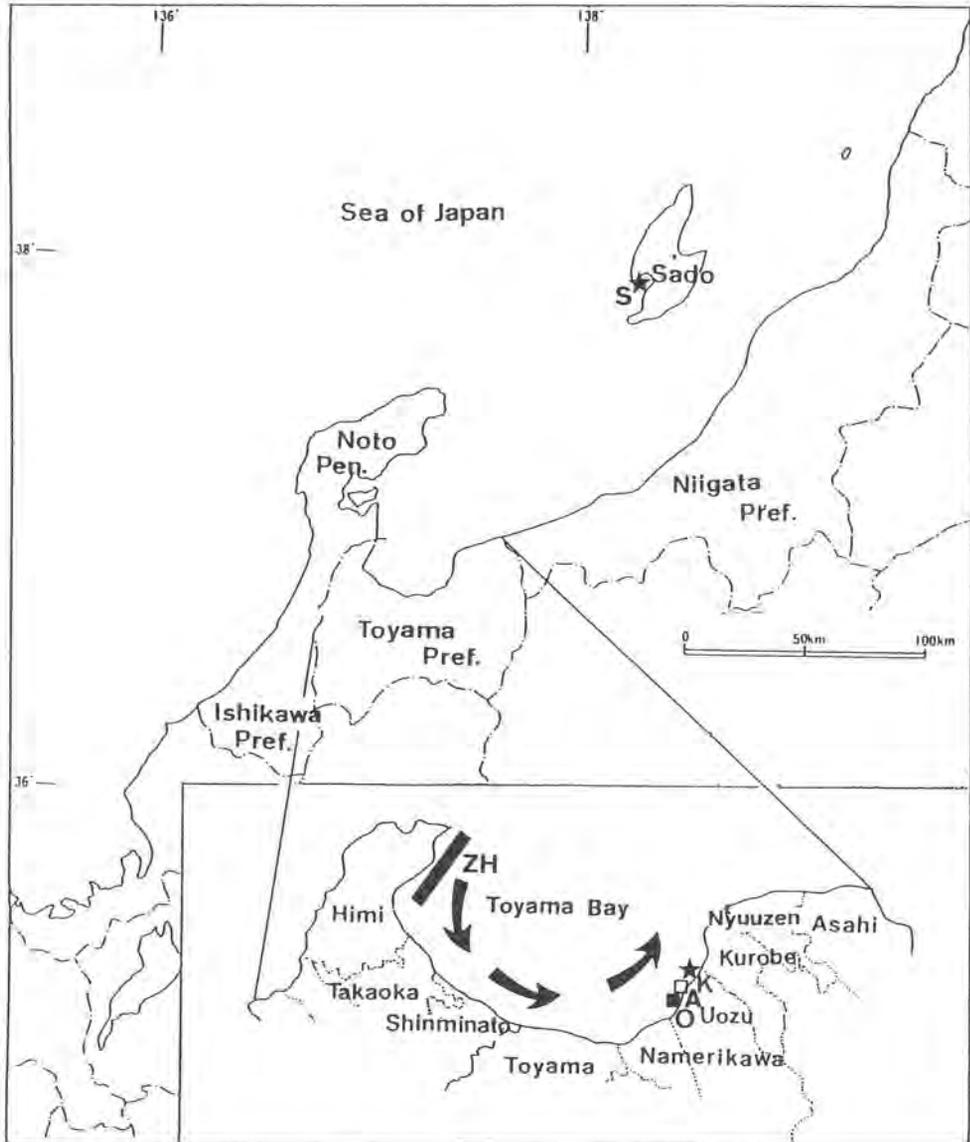


Fig. 1 Location of Toyama Bay and Uozu City, showing the coastal area and spots where sea grasses were sampled. Note that sea grass beds outside of Toyama bay are not shown here. Arrows : dominant current in the surface layer. Solid bar(ZH): Sea grass bed composed of *Zostera* spp. and *Halophila ovalis*. ★: Satellite population of *Halophila ovalis*. ■: Extinct population of *Zostera japonica*. □: Spot where drift of *Zostera marina* was found. A: Aoshima, K: Kyoden, O: Ohmachi, S: Sawada (Northernmost record of *Halophila ovalis*)

ミヒルモを採集した。残念なことに、詳しい生育記録や標本は残っていない。

1998年6月、魚津市経田漁港沖 (Fig. 1) の砂泥域でSCUBA潜水を行ったところ、距岸約200~300m、水深約10mの泥底にウミヒルモのパッチ状群落 (Fig. 2a) が点在しているのを見つけた。各群落は直径1m未満の円形を成し、群落間は数m隔たっていた。周囲には、褐藻ケヤリ *Sporochnus scoparius*、紅藻ツルシラモ *Gracilaria chorda*、同ヨツガサネ *Pterothamnion yezoense* などが生育していた。このうち、ツルシラモは長さ2.4mに及ぶ長大な個体も採集されている。魚介類では、ヒモムシ類、ツメタガイ *Glossaulax didyma*、モミジガイ *Astropecten scoparius*、ネズミゴチ *Repomuceus richardsonii*、オニオコゼ *Inimicus japonicus*、カレイ類などが認められた。

1999年3月の調査では、生育帯一面が珪藻によって覆われており、ウミヒルモの円形パッチ状群落は認められなかったが、数個体採集できた。ウミヒルモ生育帯の岸側は砂質で、冬季の波浪の影響による蓮痕が形成されていたことから、波浪の影響が押さえられた水深で、泥が堆積した条件になれば、本種の生育は難しいと予想される。

ウミヒルモは、能登半島内浦沿岸にごく普通で、半島先端の珠州市から氷見市まで生育が知られていた (佐野ら 1978)。氷見市沿岸では氷見漁港沖の唐島周辺まで分布が確認されている (藤田 未発表) が、それ以外の富山県沿岸では見つかっていなかった。ウミヒルモは、能登半島が北限とされていた (Miki 1934) が、後に、佐渡島の動植物リスト (Honma and Kitami 1978) に含まれており、真野湾北側の佐和田町沿岸においても生育記録 (佐和田町史編纂委員会 1988)



Fig.2 Habitat and plants of sea grasses collected from Uozu City, Toyama Bay.

- a: Habitat of *Halophila ovalis* on muddy bottom at a depth of 12 m off Kyoden Coast (June.1998).
- b: A plant of *Zostera japonica* and its epiphytic aplysiacean sea slug, *Petalifera punctulata*, collected from Ohmachi Town (July, 1989).

がある。富山県東部や新潟県の本土側ではこれまでに本種の分布記録はなく、魚津市沿岸のウミヒルモは能登半島と佐渡以外では現在知られている唯一の個体群ということになる。

**コアマモとアマモ** 魚津市の角川河口右岸側にある大町公民館地先では、消しブロックと海岸の間の砂泥域が徐々に浅くなり始め、1985年頃からアマモ属海草が認められるようになった。1989年には、水深2～3m、約30m×10mの範囲にこの海草が転々と見られた。夏枯れの時期には、種子が形成されている個体も確認され、着実に生育面積が増えていた。葉上にはウミナメクジ *Petalifera punctulata* (アメフラシ科) が生活しており、これを魚津水族館で展示した際に用いられた種名掲示板用の写真が保存されていたので、Fig. 2b に示した。写真には3本の葉脈が明瞭に写っているので、コアマモと判断した。この群落には、ウミナメクジのほかにも小型巻貝類も多数見られ、小規模ながらアマモ場群落としての様相を呈していたが、1993年秋頃、親水護岸の工事(1993年9月～1994年2月)のために浚渫が行われ、消滅した。

これとは別に、1999年3月18日、魚津市青島地先に打ち上げられたホンダワラ類の寄り藻の中に、海草が混じっているのが確認された。この海草は、地下茎が発達しており、葉脈が7本あったことから、アマモと判断した。

以上、アマモとコアマモについても、富山湾西部に産することが知られている(佐野ら 1978, 佐野・藤田 1998) が、この2種については、富山湾周辺が北限というわけではない。富山湾の平均的流動パターンをみると、表層水が沿岸沿いを反時計廻りに流れることが知られており(内山 1998)、先のウミヒルモの場合も含め、魚津市で採集記録のある海草3種は、いずれも最も近い生育地と考えられる富山湾西部から流れ藻として魚津市沿岸に来遊し、適当な条件下に到達したものが繁殖したと考えることができる。

## 参 考 文 献

- 藤田大介 1998. 藻類採集地案内 富山湾. 藻類, 46:199-203.
- Honma, Y. and Kitami, T. 1978. Fauna and flora in the waters adjacent to the Sado Marine Biological Station, Niigata Univ. Ann.Rep.Sado Mar. Biol. Stat. Niigata Univ., 8:7-81.
- Miki, S 1934. On the sea grasses in Japan (Ⅲ). Bot. Mag., (Tokyo), 48, 171-178.
- 日本水産学会編 1981. 藻場・海中林. 恒星社厚生閣. p.163. 東京.
- 佐野 修・藤田大介. 1998. 海藻・草類の生育状況. p.39-45. 能登自然史調査研究会編 石川県の浅海域の生物. 石川県環境安全部自然保護課. 金沢.
- 佐野 修・池森雅彦・新崎盛敏 1978. 能登半島富山湾岸におけるホソエガサとウミヒルモの分布およびその生育状況. 北陸の植物, 26(2), 49-61.
- 佐和田町史編纂委員会 1988. 佐和田町史 通史編 I. p.544.
- 内山 勇 1998. 富山湾の海況. p.5-7. 富山県水産試験場編 とやま湾の魚たちは今. 桂書房 富山.